3度目のネパールとバンコク

右城　猛

1.　まえがき

矢田部龍一先生の退官記念セミナーがカトマンズであった。観光を兼ねて，4泊7日の日程でネパールとタイへ行ってきた。

ネパールへ最初に行ったのは2001年11月。八木則男先生の退官記念国際シンポジウムに出席するためであった。2度目は2005年11月の地すべり対策に関する国際シンポジウムのときで，家内と大学生であった次女を伴って参加した。

タイのバンコクは2004年9月に家族旅行し，2度目は2005年のネパールからの帰りに1日観光している。

2.　日　程

12月21日の夕方高知龍馬空港を出発し，12月27日の正午過ぎに高知へ帰ってきた。

1日目 (21日)	18:25 高知空港発　NH570 19:40 羽田空港着
2日目 (22日)	0:20 羽田空港発 TG661 5:25 バンコク空港着 10:30 バンコク空港発 TG319 12:45 カトマンズ空港着 14:00　ホテルチェックイン 15:00～17:00　パタン観光 18:00　ネパール料理レストラン Hotel Himalaya 泊
3日目 (23日)	5:30　マウンテンフライト 10:00　カトマンズ市内観光　スワヤンブナート，ボダナート 12:00　昼食（サンセット　ビュー　ホテル） 14:00　矢田部先生記念セミナー 18:00　謝恩会 Hotel Himalaya 泊
4日目 (24日)	9:00　ホテル発　車にてポカラへ 16：00　自由行動 18:30　夕食（日本食レストラン） Hotel Barahi
5日目 (25日)	4:45　ホテルチェックアウト 5:00　サランコットの丘に朝日観賞，その後ポカラ空港へ。 9:20 ポカラ空港発カトマンズへ 11:00　国際線チェックイン 13:55 カトマンズ空港　TG320 18:30 バンコク空港着 20:30 Hotel シェラトングランデスクンビット
6日目 (26日)	8:00 ホテル出発 ダムヌンサドゥアク水上マーケット バンコク市内で昼食 市内観光　暁の寺，王宮，エメラルド寺院，涅槃寺 23:15 バンコク空港 TG682
7日目 (27日)	6:55 羽田空港着 10:45 羽田空港発　NH563 12:15 高知空港着

羽田国際空港0:20発のタイ国際航空TG661でこれからバンコクへ向けて出発する。

3. スワンナプーム国際空港(バンコク国際空港)でのトランスファー

バンコク到着は現地時間の 6 時 25 分。日本とは 2 時間の時差がある。フライト時間は約 6 時間。

バンコクのスワンナプーム国際空港は，2006 年にオープンした空港。アジアのハブ空港を目指しているだけあって空港の規模は大きい。成田空港の 3 倍の広さがある。

ターミナルも広く，数多くの免税店が並んでいる。

乗り継ぎの時間が約 5 時間あった。免税店でジム・トンプソンのタイシルク・ネクタイとハンカチを購入。

搭乗ゲートの待合室で，高知大学の原忠先生や張浩先生と偶然出会った。

原先生たちは，羽田 0:05 分発の JAL で来られたようで，目的地は同じカトマンズとのこと。

4. カトマンズ

(1) 空港からホテルへ

10:30 バンコク空港発のタイ国際航空 TG319 でカトマンズに向かう。

カトマンズが近づいてくると雲の上に雪化粧したヒマラヤ山脈が頭を出してきた。

トリブバン国際空港(カトマンズ国際空港)着は現地時間の 12:45。日本とは 3 時間 15 分の時差がある。タイとの時差は 1 時間 15 分である。

雲の上にヒマラヤ山脈が見える

トリブバン国際空港に到着(加賀山撮影)

カトマンズは標高 1,300 メートルにある東西 25 キロ，南北 19 キロの小さな盆地。カトマンズ盆地には，パタン市，バクタプール市，カトマンズメトロポリタンシティーなどを合わせると人口は 250 万人。

空港からワゴン車でパタン市にあるホテルヒマラヤに向かう。道路はゼネストの影響で意外と空いていた。

異常に多い電線。この光景は東南アジアの国でよく見かける。

(2) パタン観光

ホテルにチェックインをしてからパタン観光に出かけた。ダルバール広場までは，ホテルから徒歩で 20 分の距離にある。

ダルバール広場に通じる商店街の店舗は，店を閉めていた。ガイドに理由を尋ねると，ストライキのためということであった。

22 日はネパール共産党のマオイストが，燃料の値上げに抗議してバンダ(ゼネスト)をカトマンズ盆地内で実施することが予定されていた。ゼネストが起きると走行中の自動車やバイクがバンダ実施団体から攻撃を受ける可能性がある。

パタン市のホテルヒマラヤ。

昨年 4 月 25 日のネパール地震で，建物に被害があったようで，突っ支い棒をしていた。

パタンのダルバール広場。ダルバールとはネパール語で「宮廷」を意味する。

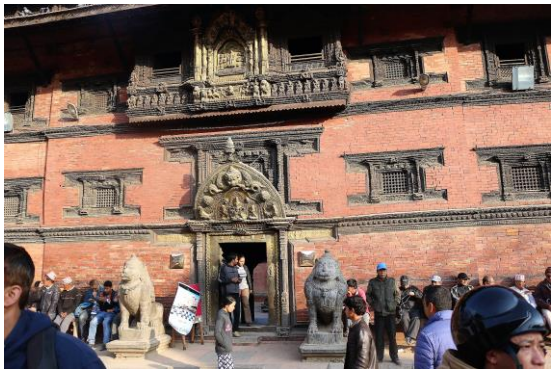
左側のインド様式の建物は，クリシュナ寺院。17 世紀に建てられた石造りの寺院。2 階にはクリシュナ，3 階にはシヴァ，4 階にはブッダが祀られている。

露店で果物を売る女性。

王宮も地震で被害を受けていた。

このヤギたちは今日，生け贄にされる。その後は食料になる。

王宮の中庭にある沐浴場。



王宮の入り口。

マンガ・ヒティ。市民が体を洗う沐浴場。

王宮の入り口では，市民が日向ぼっこをしていた。ネパールでは，どこにいても暇そうにしている人がいる。

タンカを描いている男性

お土産用の操り人形

果物を売る男性

店の前で暇つぶしをしている男性たち

町中を牛が歩いている。ヒンズー教では牛は神聖な動物とされているが，交通事故や渋滞の原因となっている。

(3) レストランで食事

カトマンズの繁華街タマル地区にあるネパール料理の店で食事。食前酒のつまみは，ポップコーンやナッツ。

ネパールのメインディッシュ

ネパール民謡を鑑賞したあとは，観光客もステージに上がって一緒にダンスを踊る。

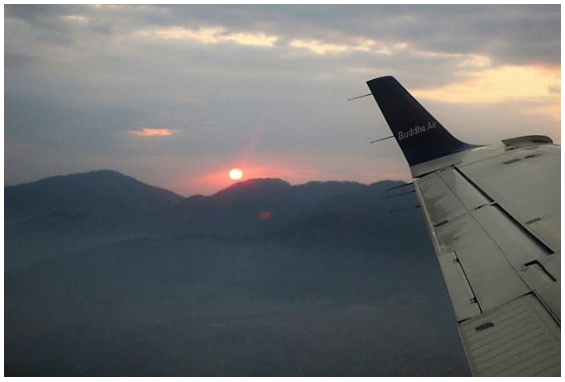
夕食に行ったメンバー。後列左より第一コンサルタンツの弘田伸，応用地質の上野将司，島根大学の汪発武，愛媛大学矢田部龍一，香川高専の向谷光彦，香川大学の長谷川修一，愛媛大学中島淳子。前列左より日本プロテクトの加賀山肇，愛媛大学木下尚樹，第一コンサルタンツ右城猛，愛媛大学ネトラ P ダンバリ，芙蓉コンサルタント須賀幸一，諏訪技術士事務所の諏訪靖二。

(4) マウンテンフライト

ホテルを 5:30 に出発。カトマンズ空港からブッダエアーの小型飛行機に乗ってマウンテンフライトを楽しんだ。ヒマラヤ山脈に沿って，その南側を東へ約 20 分飛行するとエベレスト山の近くにくる。乗客一人ひとり交代でコックピットから写真撮影が許される。

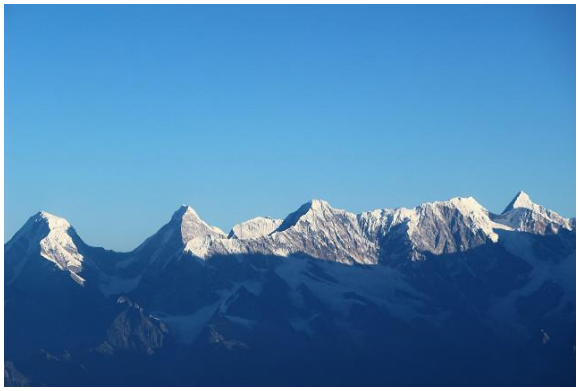
15 年前と 11 年前に来たときはエベレストのイエローバンドを確認することができたが，今回ははっきり見えない。エベレストに近づくと気流が乱れ危険であることから，最近は飛行機をエベレストにあまり接近させないようである。

小型飛行機の機内の様子



雲海からの日の出を見ることができた

左側の高い山が標高 8848m のエベレスト山



ヒマラヤ山脈。今年は積雪が少ないようだ。山の岩肌が見える。

マウンテンフライトの小型飛行機

(5) スワヤンブナート(モンキーテンプル)

ストライキがあった昨日とは打って変わって道路は大渋滞。乗用車，トラック，バス，バイクが入り乱れてけたたましくクラクションを鳴らしながら，少しの隙間があればどんどん割り込んでくる。そのような中を歩行者が道路を横断する。信号もない中で，事故が起きないのが不思議なくらいである。

むしろ信号や道路標識などを頼らないことが，運転技術を向上させ，事故を防いでいるのかも知れないと思った。

カトマンズの市街から約2キロ西の丘の上にあるのが，スワヤンブナート寺院。ネパール最古の仏教寺院である。猿が多いので「モンキーテンプル」とも呼ばれている。

ストゥーパの前にあるのは巨大なドルジェ(金剛杵こんごうしょ)。杵(きね)とは穀物の脱穀などに用いる道具である。

ストゥーパのドームの上には，世界を見渡すブッダの眼が描かれている。

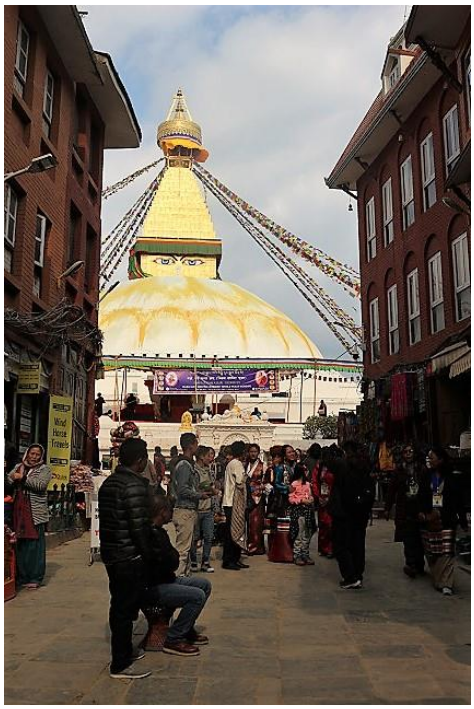
「オンマニペメフム」という真言が刻まれたマニ車。マニ車を一つひとつ回しながら真言を唱え，ストゥーパを右回りに回る。

鬼子母神を祀るハリティ寺院

土産物店

記念撮影

(6) ボダナート



ボダナートはカトマンズの東方7キロに位置している。ネパール最大のストゥーパ(仏塔)があり，チベット仏教徒の巡礼の地となっている。

ストゥーパの周囲には土産物店が並んでいる。

棒で火をかき混ぜるのは焼香と同じ意味があるのだろうか。

巨大マニ車。中に小人の係員がいて，使用料(入場料？）を取られた。

スワヤンブナート寺院には猿がいたが，ここには鳩がたくさんいる。

(7) パシュパチナート

パシュパチナートはカトマンズの東方5キロに位置している。ガンジス川の支川バグマティ川の川岸にあるネパール最大のヒンズー教の寺院。

橋を挟んで上流には2つ，下流には4つのアルエガートと呼ばれる火葬場があり，火葬が行われていた。

バグマティ川で死体を清めた後に火葬する

男根を表したシヴァ神の象徴シヴァリンガ

ヨガの修行をするインド人のサドゥー

土産物店。操り人形，化石，色粉などが売られていた。

道ばたで昼寝をしている男性

(8) 矢田部教授の退官記念セミナー

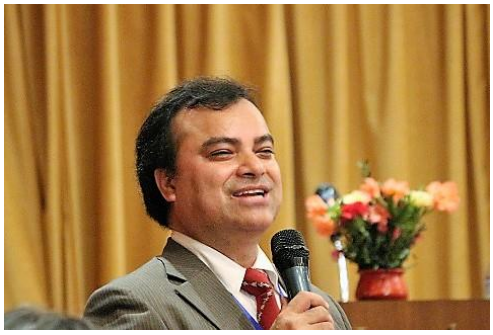
12 月 23 日 16 時より愛媛大学校友会主催で「矢田部龍一教授の退官記念セミナー」がカトマンズのホテルヒマラヤで開催された。

矢田部先生は, 1993 年に JICA の専門家として 4 ヶ月間ネパールに滞在して以来ネパールの防災教育に力を注がれ 18 名の留学生を指導し，14 名に博士号を取得させている。矢田部先生が指導した学生は，現在ネパールの大学教授，学長，大臣などの要職に就いて活躍されている。

矢田部先生は 2017 年 3 月で愛媛大学を定年退職される。矢田部先生の関係者や教え子たち 80 名が先生の退官を祝った。

来賓代表の挨拶は，ネパール日本大使館の小川正史特命全権大使がされた。多くの来賓の挨拶，教え子からのお礼の言葉があった後，矢田部先生がこれまでの 23 年間を振り返り，ネパールの防災教育に取り組んだ動機などを話された。

最後に，ネパールの教え子たちから，カシミヤのショール，トピー帽，肖像画などの記念品が贈られた。教師冥利に尽きる最高に幸せなひとときになったと思う。



司会をする愛媛大学准教授のネトラ P バンダリ

壇上に並ぶ来賓者。左から二人目が日本大使館の小川正史特命全権大使。

会場内の様子。参加者は約 80 人

日本からの参列者

矢田部先生による記念講演

ネパールの教え子たちから，カシミヤのショール，トピー帽，肖像画などの記念品が贈られた。

秘書の中島淳子さんにもショールと花束のプレゼントがあった。

矢田部先生はこれまでにネパールを 40 回，中島さんは 20 回訪れている。

会場を変えて謝恩会

我々のテーブルに小川正史特命全権大使も混ざって歓談。会場には大使の奥様もネパールの民族衣装を着て参加されていた。

右端は，四国地方整備局那賀川河川事務所の三國宣人氏。

名古屋工業大学の増田理子先生と次女の牧由樹子さん。11 年前に一緒であった長女の由芳子さんは既に結婚し，子供を持つ主婦とのこと。
増田先生とは 15 年前も一緒であった。

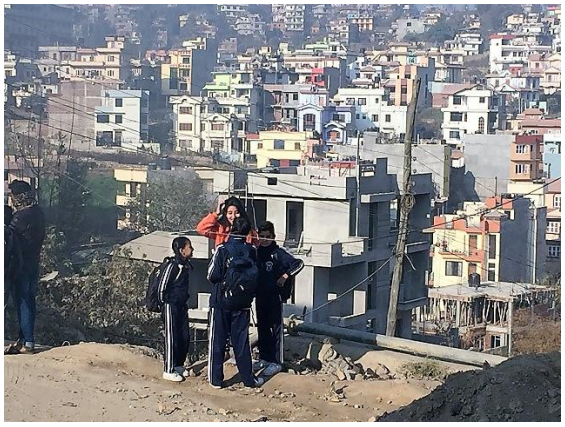
日本プロテクトの加賀山社長が，2009 年に地盤工学会四国支部から出版した「落石対策 Q&A」を，ネパール愛媛大学校友会の代表をされている Ranjan Kumar Dahal 氏にプレゼントした。

5. カトマンズからポカラ

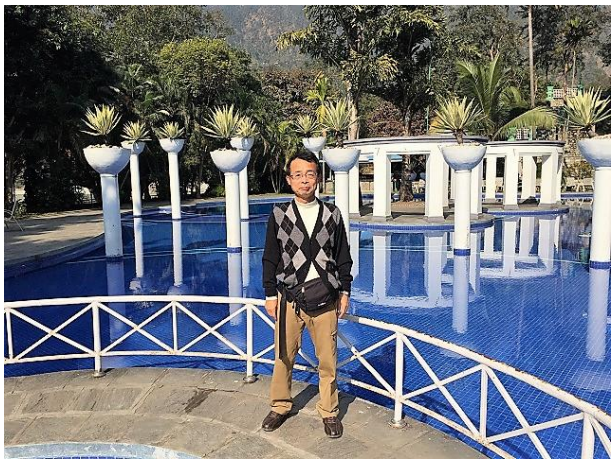
カトマンズからポカラまでバスで行く。距離は 200 キロ。プリシビ・ラジマーガと呼ばれるハイウェイで結ばれている。ハイウェイとは名ばかりの悪路。このため所要時間は 6 時間半もかかった。

カトマンズ郊外は無舗装。その先は舗装してあったが，自動車のスプリングやサスペンションが悪いため走行時の衝撃吸収性能が悪いのに加え，荒っぽい運転のせいで衝撃が体に伝わってきた。

車酔いで体調を崩した人もいた。



車窓からの風景



昼食したリバーサイド・スプリング・リゾート

ホテルの下を流れているトリッシュリ川

6.　ポカラ

ポカラはカトマンズの西方 200 キロにある。標高は 800m。道ばたにはバナナの木が生えていて亜熱帯らしい雰囲気が漂う。

ここからは 8000m 級のヒマラヤを間近に仰ぎ見ることができる。

ホテルは，ペワ湖に近い「ホテルバラヒー」

夕食まで約 1 時間あったのでペワ湖に行く

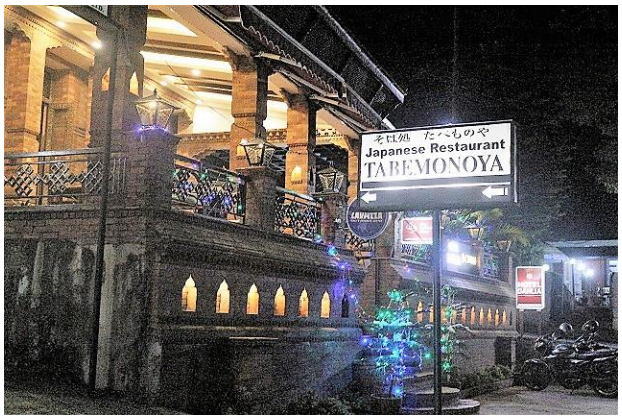
ヒマラヤには雲がかかっている。雲の上にマチャプチャレが少し見える。

ペワ湖の側にいた障害者。次の朝にも早くから営業をしていた。

ペワ湖の近くの露店商

レストランや土産物店が並ぶレイクサイド。「THE NORTH FACE」のマークが入ったダウンジャケットなど格安のブランド品が並んでいるが，どれもコピー品ばかり。

機織りの実演が行われていた



ポカラでの夕食は，19 名の仲間と一緒に日本食レストラン「そば処　たべものや」。

今夜はクリスマスイブということで，サンタ役の中島淳子さんと陣内尚子さんから心のこもったプレゼントがあった。私は運が強く 1 番くじを引いた。景品はインスタントの味噌汁。

この夜はクリスマスケーキも出された。これは変に甘くて口に合わなかった。

焼き鳥など日本の居酒屋で食べるような料理が出てきた。

サンタに扮した中島淳子さんと陣内尚子さん

ポカラのホテルを出発前に再びペワ湖からヒマラヤを眺めた。15 年前に見た真っ白く光り輝くマチャプチャレを見ることはできない。マチャプチャレに積雪がない。

写真左からアナンプルナ・サウス 7219m，アナンプルナ I8091m，マチャプチャレ 6993m，アナンプルナ II7555m。最も低いマチャプチャレが高く見え，最も低いアナンプルナ I が低く見える。

中島さんはこれまでネパールに 20 回も来てい

るが，15 年前に私たちと来たときのヒマラヤが最も美しかったと話していた。

あのときのように感動的なマチャプチャレやアンナプレナを見られるのは奇跡に近いのかも知れないと思った。

ポカラからカトマンズへの帰りは，ブッダエアー機。所要時間は約 30 分。バス移動に比べて格段に楽。

行きも飛行機にすればポカラ観光に時間を充てることができたのにと反省した。

飛行機の座席は左 2 列，右 2 列の 4 列。飛行機はヒマラヤに沿ってその南を飛行する。行きは右側，帰りは左側の座席にすわればヒマラヤ山脈を眺めることができる。

左側の座席を取ることはできたのであるが，雲が多かったこと，ヒマラヤに積雪が少なかったことから以前に感動したような神秘的なヒマラヤを見ることはできなかった。

ヒマラヤ Himalaya とは，サンスクリット語でヒマ(雪)とアラーヤ(棲家，家)が結びついたもので，雪の棲家を意味する。

積雪がなければヒマラヤではない。

7.　バンコク

(1)　トゥクトゥクと夜市

カトマンズのトリブバン国際空港を 13:55 発のタイ国際航空 TG320 便に乗り，バンコクのスワンナプーム国際空港には 18:30 到着。

日本へ直接帰る安原先生，向谷先生，上野さん，重松さんとはここで分かれる。

国際線ターンテーブルで荷物を受け取って国際線到着ガイド待機ポイントに行くと，日本旅行社の現地ガイドの「アイ」さんが待っていてくれた。アイさんはグラマーな色白の美人。西洋人のような容姿をしているが，純粋のタイ人とのこと。

ホテルはシェラトングランデスクンビット。高架鉄道 BTS スクムウイット線のアソーク駅のすぐ前にあった。

20:30，ホテルにチェックインした後，ガイドが推薦してくれた「ターミナル 21」で食事をする。2011 年にオープンした近代的な大型デパートである。4 階と 5 階がレストランフロアーのようである。店の名前は「KAISEKI」であったが，料理は懐石でなく「豚肉のしゃぶしゃぶ」であった。

食事の後，加賀山社長は体調が悪いと言うので，弘田さんと二人で「トゥクトゥク」と呼ばれる小型オート三輪車に乗って，夜市に案内してもらうことにした。

運賃を聞くと 200 バース。1 バースは 1 円なので 200 円。後でガイドブックで調べると料金は距離によって異なり，徒歩 30 分の距離なら 80～100 バース，それを超えると 100 バース以上が一般的なよう。連れて行ってくれた所は，Baiyoke エリアにあるナイトマーケット。ホテルから 3.7 キロの距離がある。歩くと 50 分はかかる。

狭い通りに衣類や時計などが 100 バース程度の金額で売られていた。

建設重機バックホーのおもちゃを 250 バースで購入。孫への土産である。

Baiyoke エリアのナイトマーケット

再びトゥクトゥクを利用してホテルに帰ることにした。料金を尋ねると来るときと同じ 200 バース。ぼったくられていないと分かったので，「シェラトングランドホテルまで」と告げて乗った。

ところが，「このすぐ右側だ」と言って下ろされた場所はバンコクチャイナタウン。シェラトングランドホテルは夜市から東南の方向に 3.7 キロであるが，チャイナタウンは西南の方向に同じだけ離れた場所にある。

チャイナタウンの夜店で食事をしている客や夜店の店主に尋ねても，誰もシェラトングランドホテルを知らないという。

トゥクトゥクが止まっていたので，その運転手に「シェラトングランドホテルまで帰りたい，料金はいくらか」と尋ねると，「200 バース」との返事。稔のために，ホテルのカードを出して確認したところ，驚いたように「それは高層ビルのホテルだ。ここからとても遠い，料金は 400 バースになる」と告げられた。

我々の服装から，そのような高級ホテルに泊まっている客とは想像できなかったようである。先に乗ったトゥクトゥクの運転手は，我々を中国人だと思ってバンコクチャイナタウンのグランドホテルに連れて行ったのである。ネパール人もそうであるが，タイ人もいい加減である。

後で，この話をガイドのアイさんにすると，発音がまずかったのではないかということであった。シェラトンは，シェラタンと言わないと通じないようだ。

300 バースに値切って乗ったが，ホテルまで距離が予想した以上に遠かったことから，下車したときに 500 バース札を渡して，後はチップだと告げると，大喜びして手を握ってきた。

(2) ダムヌンサドゥアク水上マーケット

ダムヌンサドゥアク水上マーケットはバンコクから南西に約 80 キロ，車で約 1.5 時間の距離にある。

ここは 2004 年に家族旅行で来ており，二度目となる。

ラーマ四世の時代の 1868 年に造られたダムヌンサドゥアク運河に，伝統的な文化の保護と観光客誘致の目的で造られたのがこのマーケットである。

運河の左右に熱帯植物が繁り，土産物を売る高床式の家が建っている。

折りたためば扇子にもなる防止。思わず買ってしまった。

水上マーケットの様子

(3) 王宮

現在のタイ王朝は，1782 年に誕生したチャクリー王朝である。国王は最近までラーマ 9 世であった。在位期間は 70 年以上におよび名君の誉れ高く国民から尊敬を集めていたが，2016 年 10 月 13 日に 88 歳で死去した。

タイではプミポン国王の人気は半端でない。道路やデパートなど至る所に国王の写真が飾られている。我々が市内観光したワゴン車の天井にも写真が飾られていた。

タイでは過去なんども政府と軍部のクーデターが繰り返されてきた。そんなときにはプミポン国王が当事者を呼びつけ「そんなことで国民のためになると思うのか！双方ともいい加減にせよ！」と叱りつけ一夜のうちにクーデターを沈静化したというエピソードがある。それほどまでにタイ国民に対して影響力と人気が高いと言われている。

その国王が亡くなったことで，タイ全国から喪服を着た弔問客が王宮に押し寄せていた。

後で気がついたことであるが，我々のガイドも運転手も黒い衣装を身につけていたのは喪に服していたのである。私のように赤いシャツを着て王宮を見学するのは非常識であった。大いに反省させられた。

ここには過去に二度来ているが，こんなに人出が多いのは初めてであった。また，この日は異常に暑く，気温は 35 度を超えていた。

王宮への入り口

王宮に向かう弔問客

黄金に輝く黄金の仏塔。アユタヤ王宮内の仏塔をモデルにしたもの。

タイで最も格式の高い王室寺院・ワット・プケオラ。エメラルドの色をしたヒスイで造られた高さ 66cm の仏像が祀られている。別名「エメラルド寺院」とも呼ばれている。内部は撮影禁止。

王宮の外で記念撮影

(4) ワット・アルン

チャオプラヤ川の対岸に見えるのが「暁の寺院」と呼ばれるワット・アルン。水上バスで渡る。

中国製の陶器の破片で覆われた高さ 79m の仏塔。表面の汚れを落とす作業中であった。

ヒンズー教の神々(戦士)が塔(国)を支えている

(5) ワット・ポー

1788 年にラーマ 1 世によって建立された寺院。長さ 46m，高さ 15m の金色の釈迦涅槃像が安置されている。

黄金の釈迦涅槃像の前で。写真撮影のスポットが用意されている。

108 個の鉢が並べられている。108 個の硬貨を 1 枚ずつ入れていくと 108 つの煩悩(食欲,名誉欲,性欲など)を捨て去ることができるとされている。

105 個で硬貨がなくなってしまった。1 つの坪に 2 個入れたものがあったのだろう。

8. ネパールで気がついたこと

① ネパールは 15 年前からほとんど変わっていない，時間が止まっている。

② カトマンズの街は汚い。道路や川はゴミだらけである。

③ カトマンズの街の中は未舗装の箇所が多く，砂埃がすごい。頭の髪の毛がジャリジャリしていた。

④ どこに行っても男性が座ってボーと日向ぼっこをしたり，数人が集まって立ち話をしたりしている。

⑤ 建築現場で作業をしている人を見かけたが，一生懸命に働いている様子は感じられない。動作がのんびりしている。

⑥ カトマンズではネパール地震で建物に被害を受けているが，まだ復旧の途中であった。復旧費用はすべて日本など他国からの援助金に頼っている。

⑦ カトマンズからポカラへのハイウェイは，二車線で線形が悪い。舗装はガタガタ。トンネルを抜き，橋を架けて改築する必要を感じた。

⑧ 地形は急峻で狭隘である。斜面には日本と同じように棚田が拓かれ稲作が行われている。

9. 高い勉強代

旅行から自宅に帰るとソフトバンクより「速達重要書類在中」と書かれた封筒が届いていた。中を見てビックリ。12 月 21 日から 23 日までの 3 日間に使用した電話料金の請求書で，目をむくような金額であった。

ネパールにいた 24 日から i-Pad のモバイルデータ通信ができなくなっていた。i-Pad の故障ではなく使用量が高額になり過ぎてサービスが停止されていたのである。

過去に台湾や中国，タイ，カンボジア，ベトナムなどでもモバイバルデータ通信を利用したが，今回のようなことは初めてであった。

どこの国にも海外パケットし放題の事業者がいるのであるが，ネパール，ミャンマー，ラオスだけは対象事業者がいないのである。高い勉強代を支払わされた。

10. 謝辞

このような機会を与えて下さった愛媛大学の矢田部先生，旅行の手配等をして下さった愛媛大学の中島さんに心より御礼申し上げます。

旅行中，常に行動を共にした第一コンサルタンツの弘田部長と日本プロテクトの加賀山社長には大変お世話になりました。感謝申し上げます。

2017 年 1 月 5 日記